

三豊機工株式会社

テーマ:「生産管理のデジタル化『情報の有効活用・見える化・改善』」

- ✓ 生産性向上
- ✓ デジタル

アナログ的な生産管理の改善が急務であった



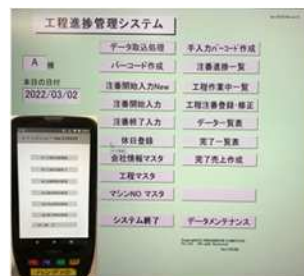
- 現状の生産管理は、各工程に配置された管理職の経験値に頼る部分が多く、各工程での受け入れから加工終了までの日数や時間の把握が足りていない状況であった。
- また、オペレーターの作業日報は手書きであるため、記入の手間と集計作業に時間を割かなければならないなど、曖昧な面と不効率な面が多々あった。
- デジタル化を推進し、精度の高い確かな数値を基にフレキシブルな生産体制を構築するため、生産管理体制を抜本から見直す必要があった。

Before

●本事業の取組内容

バーコードシステムによる生産管理体制を導入

- 自社オリジナルの生産管理システムをオーダーメイドで作製し、ワークステーション及びハンディターミナルを各工場棟に配置するとともに、データが集積されるサーバーを事務所に設置した。
- 専用のソフトウェアを使って製品の品番データ等が入ったバーコードを作製し、図面に貼付して製造工程へ流し、各工程の作業者が、前工程からの受入時と後工程への引渡し時に、図面に貼付したバーコードを読み取ることとした。
- 各オペレーターがバーコードを読み取ることで、ワークステーション用ソフトに生産データが集積。集積されたデータの中から、管理職が必要な内容を引き出し、チェック、分析し、それを基に全体最適を検討するスキームを構築した。



生産管理の見える化により生産性の向上と納期遅れによる未納品が改善



- ✓ 作業日報のペーパーレス化によりオペレーターの負荷が軽減され、日報作成に要していた時間を生産に回すことが可能となった。
- ✓ 各作業者の生産データをデジタル化することにより、どの作業が負荷となっているかの把握が容易になり、負荷の解消を図る柔軟な対応が可能となった。
- ✓ 納期厳守品の生産状況を的確に把握できるようになり、顧客からの信頼度や満足度を高めることにつながった。
- ✓ 各工程の生産能力の把握にもつながり、生産力の弱い箇所が可視化されたことにより、どこにマンパワーや設備を投入すべきか明確になった。

After

(取組の成果)

〈企業の声〉

コロナ禍の影響を受けあらゆる産業が変革を求められる中で、弊社も今後の生産管理体制の充実を図る目的でデジタル化を検討していたところ、本支援事業を知り、活用させていただきました。各管理者や作業者の声を聴き、一者の知見だけではなく工場全体で上手く使え、なおかつ顧客満足度アップにつながるシステムを目指し工夫しました。

今後も本事業で導入したシステムから得た情報を日々の生産に活用し、弊社の「拡大より充実」のコンセプトともがっちりリンクさせ納期や品質を更に高め、三豊機工の製品以外ではなし得ないとお客様から選ばれる、圧倒的な存在を目指してまいります。



舟橋代表

info

三豊機工株式会社
代表取締役 舟橋 佳孝
〒486-0816
愛知県春日井市東野新町1丁目4番地
(鹿児島工場)
〒897-0202
鹿児島県南九州市川辺町清水1542-1
TEL 0993-56-5511
<http://www.mitsutoyo.co.jp>

設立 昭和40年6月
(鹿児島工場 平成3年4月操業開始)
資本金額 3840万円
従業員数 194名
(鹿児島工場 167名)
主要製品 冷間圧造工具(金型)

